

優秀施工者国土交通大臣顕彰 会員4名が晴れて建設マスターに

平成20年度「建設産業人材確保・育成対策顕彰式典」が5月28日、冬柴鉄三国土交通相などが列席して、東京都港区芝公園のメルパルクホールで開催された。同日の式典は、二部構成で実施され、第一部では「優秀施工者国土交通大臣顕彰式」(建設マスター顕彰式)として、内発協が推薦した会員企業の4名を含む顕彰受賞者412名に対し、建設マスターの称号を授与する表彰状と記念品の胸章が贈呈された。続いて、第二部では「建設産業人材確保・育成推進協議会全国会議顕彰式」が行われ、国土交通大臣顕彰4社、総合政策局長顕彰4社がそれぞれ受賞した。

第一部の優秀施工者国土交通大臣顕彰式では、冬柴鉄三国交相が登壇して、名前を読み上げられた受賞者一人

ひとりが次々と起立して冬柴国交相と目礼をかわした。その後、冬柴国交相から受賞者代表に対して表彰状と記念品が手渡された。今回、内発協が推薦した4名は、ダイハツディーゼル株式会社の藤田賢実氏、日本機工株式会社の大友泰利氏、株式会社マッハエンジニアリングの町田浩三郎氏、三菱重工エンジンシステム株式会社の黒川博司氏。いずれも発電設備の据付工事現場に20年以上従事して優れた施工実績を持ち、永年にわたり積極的な後進育成にも務めてきた活動実績が高い評価を受け、優秀な「機械器具設置工」として受賞し、晴れて建設マスターの仲間入りを果たした。

国土交通省では、建設産業における人材対策を推進するため、建設生産物の品質確保に寄与する優秀な人材を確保・育成する取り組みについて広く周知する事を目的に、毎年度、「建設産業人材確保・育成対策顕彰式典」開催している。



藤田賢実氏



大友泰利氏と令夫人



町田浩三郎氏と令夫人



黒川博司氏と令夫人

東京国際消防防災展2008が閉幕 4日間で12万9千人が来場

東京港区の東京ビッグサイト西1・2ホールを会場に、最新の消防防災システム・機器を一同に集めて紹介した「東京国際消防防災展2008」が6月8日、閉幕しました。

今回の開催規模は、国内外から応募した182企業・団体が延べ1,050小間(屋内670小間・屋外380小間)にわたり、会場では西1・西2の二つの大ホールを用いて、最新の自社製品の実機を展示したりDVD映像を駆使して、各社が積極的なPRを繰り広げました。4日間の会期中、延べ約12万9千人の来場者がありました。

前回開催に引き続き、今回も内発協では1小間を使って出展を行い、現在、協会が取り組んでいる自家発電設備に関する製品認証事業の概要や専門技術者養成制度の推移、自家発電設備の設置事例などを大型パネルを交えて、広く一般の方に向けて紹介しました。そのほか、会場では、大手自動車メーカーが、キャンピング用品としても人気のある可搬形発電機の製品シリーズを陳列したりして来場者の注目を集めていました。



内発協の展示ブース



ホンダは可搬形発電機シリーズを展示した